

# 藤塚小だより

学校教育目標：生きる力にあふれる子

～「自分らしさを発揮する力」の育成を目指して～

令和5年 2月24日  
横浜市立藤塚小学校  
学校だより 3月号  
TEL (351) 2314  
FAX (351) 7349

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fujizuka/>

## 絆活動

校長 藤田 陽子

正門近くの桜のつぼみがふくらみ、間もなく訪れる春の日差しを待ち受けています。

くすんだ色のごつごつとした幹と固く暗い色のつぼみの内側で、桜がどのように咲出でる準備や努力をし、その時を待っていることかと想像しています。

私が藤塚小学校に着任して間もない頃、児童から「絆」という言葉が多く聞かれ、「絆とは、なんだろう?」とっていました。藤塚小学校での勤務を重ねるにつれ、「絆」とは異学年グループ活動であることが分かりました。異学年グループに『絆グループ』という名前がつけられ、児童も教職員もこのグループによる活動のことを「絆」とよんでいました。児童から「絆」の言葉が多く聞かれると感じたのは、それだけ絆活動が学校生活に根づき、多くの活動を行っていたからです。数年来、感染症対応のための制限期間が続きましたが、ようやく藤塚小らしい「絆」活動の積み重ねを行うことができるようになってきました。

今年度はゲームを通じた自己紹介から始まり、休み時間の遊びやスポーツフェスティバルへの絆グループによる参加、カルタ大会、縄跳びなど、行事や様々な絆活動に取り組みました。活動を繰り返すたびに、低学年児童が安心して中学年や高学年児童にかかわり、仲良しを増やす様子を目にすることができました。活動を通じ、6年生・5年生・4年生は高学年としての自覚を深め、異学年の友だちを応援する意欲を高めていきました。

6年間の絆活動におけるゴールの目標は「最高学年としての自覚をもち、下級生の支援をしながら、グループのみんなが楽しく活動できるように考えて行動する」です。先日のカルタ大会や長縄の練習のときには、準備や後片付けは勿論のこと、他の学年の児童が安心して活動できるようカルタのルールを確かめる姿や長縄跳びに不安をもつ1年生に寄り添う6年生の様子が見られました。6年間の活動を通じ、目当てを達成している姿が表れていることを大変嬉しく感じました。

同時に、6年生は今の自分に成長するまでに、その内側でどれほどの準備や努力をしてきたことかと考えました。例えば、リーダーとなった最初の会議での不安、グループの皆の前に立つときの緊張、代表としての役割を果たすための練習、そして異なる学年の友だちの行動の理解や支援の工夫。そのような一つ一つの準備が、そして努力が自分を成長させる原動力となったのだと思います。

6年生の豊かな成長を見つめながら、1年生から6年生までがそれぞれの学年目標をもち、異なる学年の友だちとの関わりの中で成長する「絆活動」の大切さを改めて振り返っています。そして改めて、絆活動の次なるリーダーの5年生にエールを送りたいと思います。

保護者の皆様、そして地域の皆様、今年度も本校の教育活動に対する深いご理解とあたたかいご支援、本当にありがとうございました。

